

皆様 お元気ですか 残暑でまだ暑い日の続く日本に比べて9月のドイツは気温も下がり、日中の最高気温も20℃程度です。車に乗っても朝や夜はヒーターが必要です。9月は1年を通じてもっとも日独の気温と季節感の差が大きい月だと思います。今年の秋、ドイツ人にとっての明るい話題はコロナ規制で2年間開催が見送られたオクトーバーフェストの3年振りの開催です。オクトーバーフェストなのにどうして9月なんだ？このツッコミへの答えも含めてオクトーバーフェストについてご報告したいと思います。

開催されるのドイツ南部、バイエルン州の州都ミュンヘンです。市内の中心部にテレジアンヴィーゼと呼ばれる開催場所があり、フェスト期間中以外は観光バスの駐車場などとして使われています。開催期間は10月の最初の日曜日を最終日とする16日間と定められていますが、1990年以降10月3日が東西ドイツ再統一の日として祝日になった関係から第一日曜日が1日か2日となった場合は10月3日まで開催することになっています。今年が正にこの例外にあたり、10月3日を最終日とする17日間の開催となります。もっとも第一日曜日が遅いのは10月7日の場合ですが、大半の年では開催期間の半分以上が9月中となります。これが9月にオクトーバーフェストが開催される理由です。



会場の航空写真 42Ha 東京ドーム9個分

普段はこんな感じのただの広場

1810年、バイエルン王国の皇太子の結婚式に際して、競馬を開催したのが始まりとされ、それ以降、開催初日にミュンヘン市長が開催を宣言したり、市民が民族衣装でパレードをするイベントが追加され規模も拡大、今日まで世界最大のビール祭りに発展してきました。この期間世界中から600万人が訪れます。過去200年間で、主に戦争やコロナ等の為35回中止されているそうです。



開催を宣言するミュンヘン市長



開催初日のパレード

世界中のビールメーカーが参加したいと考えるオクトーバーフェストですが、過去も、そして今後ともその望みがかなうことは無いでしょう。何故なら、参加できるのはミュンヘン市内に醸造所を持つ6つのビールメーカー（シュパーテン、ハッカープショー、パウラナー、ホーフブロイ、アウグスティナー、レーベンブロイ）に限られているからです。レーベンブロイのビールはアサヒ飲料が日本国内でライセンス生産しているので飲まれた方もいると思います。オクトーバーフェストの会場で提供されるのは毎年各メーカーが春先から仕込んだオクトーバーフェスト用の通常よりもアルコール分の高い特製ビールです。マスと呼ばれる1リットル入りのジョッキで提供されます。今年の価格は13ユーロ、約1800円ほどです。



ビールのお供はめの字の塩パン、



豚や鶏のグリル、ソーセージなどです。

仮説とは思えない巨大なテント内には12000人分の席があります。6つのメーカーとその他大小合わせて10万人分の席が用意されています。近年は家族向けや高齢者などに配慮して18時までは静かな音楽を演奏して健全なイメージの維持に努めているそうです。



席に着いてオーダーを済ませば、隣からすぐ話しかけられます。どこから来たの
ジャパン ジャパン最高だね ドイツもね じゃあ乾杯 これだけで すぐにビール祭の
仲間入り

男性は皮ズボン、女性はディアンドルというドレスがバイエルン州から近隣のスイス、オーストリアに共通する民族衣装ですが、会場でもよく見かけます。日本のお祭りに浴衣で出掛けるような感じです。このディアンドルですが、エプロンの結び目が左手側にある場合が未婚者、正面なら既婚、後ろは未亡人という区別があるそうです。



大規模な移動遊園地のアトラクションも楽しみです。子供向けから絶叫系マシン、お化け屋敷など様々です。バイクや自動車スタントなど日本ではなかなか観れないハードなアトラクションもあります。観光案内したお客さんに 100m くらいの高さから一気に落下するスカイフォール（写真右端の塔）への同乗を頼まれた時は生きた心地がしませんでした。

私がドイツでお会いした観光客の学生さんがやたらとドイツビールに詳しいので理由をきいたところ、毎年横浜の赤レンガ倉庫で開催されるオクトーバーフェストでバイトをされているとのことでした。クリスマスマーケットと並んでドイツ発祥のイベントが国際的にも広まっているのを知って大変嬉しく思いました。東京の日比谷公園など各地でオクトーバーフェストが開催されているようです。



何故か 日比谷では 5 月開催 ?

横浜は本家同様 10 月開催

いかがでしたか？ドイツに来たくなっただ方が増えればとても嬉しいです。日独共によりやく PCR 検査も無く、航空旅客輸送が正常化されて観光にもまた誰気兼ねなく出掛けられるようになったことは大変良いことですね、過去、鳥インフルエンザなどで観光が打撃を受けたシーズンでは、その翌年以降の回復は落ち込みを取り返す以上の繁忙シーズンとなること繰り返されています。ドイツにもまた沢山の観光客が戻ってくることを期待しています。皆さんも是非ドイツにお越しください。お待ちしております。